

3カ月児健康診査の精度向上に関する研究

近 藤 朗(平塚市民病院)
小 宮 弘 毅(神奈川県平塚保健所)

研究目的

3カ月児健康診査は行政的に行われる第一段階の健康診査で、乳児の身体発育、精神運動発達、疾病の有無など、乳児の健康度に関係した多くの情報の得られる重要な健康診査である。

3カ月児健康診査を集団健診の形で行う場合に健診の精度を少しでも向上させるために、昭和56年度には予診(保健婦による問診)に先立って母親に記入させるアンケート表(別表1)と医師が診察所見を記入するチェックリスト(別表2)を作成した。今年度は健診に当る医師や保健婦のコンセンサスを得るために別表3の「3カ月児健診の手引き」を作成し、57年1月よりアンケート表とチェックリストを実際に用いてその効果を検討することを目的とした。

研究方法

神奈川県平塚保健所が平塚市在住の3カ月児を対象に実施している健康診査に、56年度に作成したアンケート表とチェックリストを用い、昭和57年1月から12月までの1年間の結果を種々の面から検討した。

結 果

(1) アンケート表およびチェックリストを用いたことの主要な利点

アンケート表について

アンケート表(3カ月児健診を受けるお母さん方)は予診での必要事項の聞きおとしを防ぎ、問題点を正確に把握する目的で作成したが、使用した結果、以下のごとき点が明らかになった。

a. アンケート表の記入には2～3分の時間を要するだけで、母親に大きな負担を与えることはなかった。

b. 母親の訴える能力に関係なく、また予診にあたる保健婦の差に関係なく、基本的に把握しておかなければならない情報が洩れなく収集できた。

c. 母親自身が子どもの問題点を整理してみる

ことができ、子どもの状況を再認識できる。

d. 母親の妊娠中のチェックから血圧測定が実施でき、成人病予防の働きかけができる。また、月経再潮のチェックにより家族計画指導がスムーズに展開できるなどの利点があった。

チェックリストについて

チェックリスト(3カ月児健康診査票)は所見の見おとしを防ぎ、かつ効率的に診察が行われることを目的として作成したが、これを用いたことの利点として以下のごとき事項が挙げられる。

a. 身体発育に関しては出生時および1カ月児健診時の身長、体重をプロットし、さらに3カ月時の計測値を重ねることにより発育曲線に比較して評価しやすい。たとえば低出生体重児で小さい子と出生後の増加の悪い子の区別などは容易である。

b. 身長の小さいものの発見が容易である。

c. 定額に関しては母親のチェック、保健婦のチェック、さらに医師のチェックなど、複数の目が注がれ、洩れを防ぐことができる。

d. 診断項目の記録が明確に残り、問題点がはっきりし、具体的な働きかけをするきっかけができ、事後措置に結び付けることが容易である。

(2) 実際のチェック状況

実際にそれぞれの項目がどのようにチェックされたかを項目別に記す。

なお、対象の概要は表1に示すとおりで、受診者は総計2,260名であった。出生順位では第1子が過半数(51.8%)であった。受診時月令では3カ月半を過ぎたものが72%で、3カ月児健診といっても4カ月に近いものが多かった。

(i) アンケート表について

①妊娠中のハイリスク因子

1. 妊娠中のことについて

1) 異常出血、腹痛等流

早産の危険があり治療

を受けた。 あり：1,352(59.8%)

2) 血圧が高いといわれた。 あり：166(7.3%)

① 診察所見チェック状況（有所見数）

診察所見

(1) 顔 面	チェック状況
☐ 顔色（貧血，黄疸，チアノーゼ）	1
☐ 顔ぼう（ダウン，クレチン，その他）	1
☐ 眼（眼脂，流涙）	5
☐ 耳（耳介変形，低位）	0
☐ 口（巨舌，口蓋裂，鵞口瘡，舌小帯）	2
(2) 頭部，頸部	
☐ 形状（高度な変形）	3
☐ 大泉門（閉鎖，拡大， mm × mm	3
☐ 軟頭蓋	4
☐ 斜頸	9
(3) 胸 部	
☐ 形状（ロート胸，鳩胸，著しい非対称）	1
☐ 心音（心雑音，不整）	6
☐ 呼吸音	5
(4) 腹 部	
☐ 肝（病的なふれ方）	0
☐ 脾（ " ）	0
☐ 腹部腫瘤	0
☐ ヘルニア（臍，そけい）	12
(5) 外性器	
☐ 女児（外性器の異常）	0
☐ 男子 陰のう水腫	4
停留睪丸	5
尿道下裂	
(6) ☐ 皮膚（母斑8，カフエオレ斑，血管腫42）	50
☐ 湿疹（頭部，顔面，体幹）	256
(7) 脊柱，四肢	
☐ 脊柱の異常（彎曲，脊椎破裂）	0
☐ 上・下肢の異常	3
☐ 先股脱の疑い	20
(8) 運動機能	
☐ 定頭の程度（未完，不完全）	33
☐ 筋トーン（亢進，低下）	0
(9) その他	

② 身体発育評価の結果

体重・身長とも3パーセンタイル以下97，パーセンタイル以上を示すもの，および増加が著しく停滞しているものを乳幼児相談の対象とする。

対象者：64/2,260（28%）

(3) 診察結果および事後措置

診察の結果では2,260人中138人，6.1%が健康管理上注意すべきもの（継続指導が必要なものと考えられた（表2））。

これらのもののうち明らかな疾患のあるものは医療機関へ紹介し，明らかな疾患はないが発育，発達に問題があると考えられるものは保健所で行っている乳幼児相談（小児科専門医による二次健診）にまわした。整形外科の疾患が疑われる場合には保健所の身体障害児健診（整形外科医による検診）を受診するようすすめた。それらの人数は表3のとおりである。

考 察

健康診査の精度を向上させる目的で母親へのアンケート，医師の診察時のチェックを用いたが，どちらもスムーズに健診に取り入れられ，結果の項で述べたような利点が認められた。

妊娠中，分娩時，新生児期のハイリスク因子を具体的に聞くことは，単にお産に異常がなかったかと聞くよりはリスクの把握がしやすいことはいうまでもない。現在のところ，乳幼児相談へは健診で問題がありそうな児を予約しているが，健診時点では異常がなくてもアンケートでリスク因子の数が多いもの，とくに危険の大きいと思われる因子を持っているものなどは積極的に乳幼児相談で健康管理していくようにして行きたい。

3カ月児健診では発達段階に関して，首のすわりが問題になることが多い。この点に関しては母親，保健婦，医師と3段階のチェックがあるが，母親のアンケートへの記入，保健婦の確認では，チェック状況の項に記したように“首がすわらない”74人（3.3%），“腹ばいで頭をもち上げない”135人（6.0%）であったが，医師のチェックで“定頭未定”と判断されたものは33人（1.5%）であった。昭和55年の身体発育調査に際して行われた発達チェックでは“腹臥位で頭と肩を挙げ，胸を床からはなしている”ものを首すわりの完成して

いるものとし、その通過率は3カ月で50%、90%を超すのは4カ月過ぎとなっている。

これに比べ、今日のチェックは完成の判定がやや甘く、医師のチェックではその他の診察所見を合せて心配ないと判断されたものは未完とチェックされなかったものと思われ、そのために首がすわっていないと判断されたものが少なかったものと考えられる。

3カ月児健診の時点では、明らかな疾患の多くはすでに医療機関で管理されており、そのため事後措置として医療機関紹介は少なく、乳幼児相談にまわされるものの多くは発育、発達に若干の問題を指摘されたものであった。

健診の精度を向上させようとするとき、事後措置の一つとして二次健診は重要である。平塚保健

所では二次健診の場として乳幼児相談を設け、小児科専門医がこれを当っている。現在まで小宮が担当しており、58年4月からは近藤が担当の予定である。一次健診の充実を今後とも図ると同時に、二次健診としての乳幼児相談の活動も積極的に進めて行きたいと考えている。

ま と め

3カ月児健康診査にアンケート表とチェックリストを用い、健診の精度向上を図った。その結果、周産期のリスク因子の把握、発達の評価、診察所見の統一など、多くの利点がみられ、健診の精度向上に役立ったと考えられた。今後も一層の充実を目指して行きたい。

表1 3カ月児健診の対象

a. 受診数・受診率

対象数	2,759
受診数	2,260
受診率	81.9%

b. 出生順位別

第1子	1,171 (51.8%)
第2子	803 (35.5%)
第3子	248 (11.0%)
第4子以上	38 (1.7%)

c. 月令別

満3カ月半未満のもの	633 (28%)
満3カ月半を過ぎているもの	1,627 (72%)

d. 栄養法別

母乳栄養	623 (38.1%)
混合栄養	506 (22.4%)
人工栄養	1,131 (50.0%)

表2 診察結果

受診者数		2,260
健康管理上注意すべきもの※(実数)138(6.1%)		
内 訳 (延数)	心疾患	新 1 旧 11
	股関節 開排制限	新 14 旧 6
	斜頸	新 3 旧 6
	発育不良	24
	臍 そけいヘルニア	12
	陰のう水腫	4
	眼科疾患	5
	皮膚疾患(湿疹)	287(256)
	先天奇形	2
	頸定不確実	33
	その他の精神発達	1
	その他	27

※ 継続指導が必要なもの(湿疹などは除外)

表3 事後措置

医療機関紹介		7
乳※ 幼児 相談	身体発育	64
	精神運動発達	30
	身体及び精神	5
身体障害児健診 ※※		23

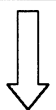
※ 小児科専門医による二次健診

※※ 整形外科医による検診



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

3 ヶ月児健康診査は行政的に行われる第一段階の健康診査で、乳児の身体発育、精神運動発達、疾病の有無など、乳児の健康度に関係した多くの情報の得られる重要な健康診査である。

3 ヶ月児健康診査を集団健診の形で行う場合に健診の精度を少しでも向上させるために、昭和 56 年度には予診(保健婦による問診)に先立って母親に記入させるアンケート表(別表 1)と医師が診察所見を記入するチェックリスト(別表 2)を作成した。今年度は健診に当る医師や保健婦のコンセンサスを得るために別表 3 の「3 ヶ月児健診の手引き」を作成し、57 年 1 月よりアンケート表とチェックリストを実際に用いてその効果を検討することを目的とした。